

羽田空港国際線発着枠の配分について(平成 25 年 10 月 2 日)

別紙 配分の考え方

今回の羽田空港の国際線発着枠の配分に当たっては、我が国の航空企業が、今後とも、適切な競争基盤に立って事業を進めていくことが利用者利便の増進、我が国航空業界の健全な発展のために必要であるとの考え方を基本とする。

すなわち、航空局は、「日本航空の企業再生への対応について(平成 24 年 8 月 10 日)」に基づき、「JAL グループ中期経営計画(2012 年度～2016 年度)」の期間中、日本航空に対する公的支援によって航空会社間の競争環境が不適切に歪められていないか等を確認するため、その路線計画について報告を求め、その状況を監視することとし、新規路線の開設に関しては、適切な競争環境の確保の観点から、同計画に明示的に位置づけられたものを除き、抑制的に判断することとしているが、今回の配分もこの考え方に沿ったものとする。

具体的には、今回発着枠の配分を受けて航空便が設定された場合において、当該企業にとって新規路線の開設に該当するかどうかを基本として判断基準とすることとする。

なお、今回配分に至らなかった発着枠(9枠)については、米国をはじめ各国と引き続き航空交渉を行うこととし、合意が整い次第順次、今回と同様、上記の考え方により航空会社への配分を行うものとする。